



ONE WORLD Info

英語教育 通信

28年度版
教科書紹介
特集号

特集：こう変わる！平成28年度版ONE WORLD English Course

英語を使うことを強く意識した英語教育に … 松本 茂

CAN-DOリストと言語活動 … 本多 敏幸

基礎的・基本的な力を養う ―教科書を使って― … 金枝 岳晴

小学校外国語活動との連携 … 泉 恵美子

別冊 Essentials … 野田 小枝子

連載 とっておきの英語9 Perhaps you'll find out. … 野田 小枝子

今ドキ英語事情 A Modern Dinosaur? … Peter J. Collins

英語を使うことを強く意識した英語教育に

立教大学 松本 茂

急速に変わる英語教育

2013（平成25）年12月に文部科学大臣により「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が発表されて以来、小学校から大学までの英語教育改革に関する国レベルの討議および施策提案が加速化している。

英語教育がここまで急激な勢いで変わるということを感じることは、戦後70年間なかったのではないかと、言っても過言ではないだろう。英語教育に関わる教員や関係者は、「グローバル化に対応」を旗印にし、刻々と変化する英語教育施策等の情報収集に努め、指導の方向性を見誤らないようにしたいものだ。

まず注目しなければならないのは、2016（平成28）年度末までに学習指導要領の改訂が行われ、2020（平成32）年度から全面实施される予定であるという事実だ。ということは、2016年度より使用される教科書は、その学習指導要領の全面改訂後の英語教育へのいわば「橋渡し」の役目を担っていることを意味する。つまり、今後どのような指導をしていくべきなのかについては、2020年以降の英語教育の在り方を考えたうえで検討すべきである。

2020年度までに変更されると予想されている点のうち、もっとも大きなポイントの一つは、小学校における外国語活動が3・4年次に前倒しされ、5・6年次では英語が教科化されるということであろう。

5・6年次の英語教育がどのような内容、指導法になるのかはまだ明らかにされていない。リスニングやスピーキングの指導が中心になることが予想されるものの、リーディングやライティングの指導を「しない」というわけにはいかないであろう。これにより、少

なくとも中学1年次の指導内容は現在よりも高めになることはほぼ間違いないと思われる。また、すでに一部の私立中学校の入試において英語が課されているが、小学校での英語教科化にともない、数多くの私立中学の入試において英語が試験科目になるであろう。

2020年度に実施されることが予想されるさらに大きなもう一つの変更点は、現在の大学入試センター試験に代わる「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」が実施されることだ。

このテストではスピーキングやライティングを含む4技能の力を測るテストの導入がほぼ確実視されている。センターが作成した問題を使用するかどうかは未確定であり、GTEC CBTやTEAPなどの外部検定・資格テストを活用することも視野に入れて検討される模様だ。

いずれにしても、2015年4月に中学1年生になる子どもたちの代から、大学入試における英語のテストでは4技能が測定される可能性が高い。なお、立教大学など一部の大学では、この動きを先取りし、4技能資格・検定テストを活用したテスト方式を2016年2月実施の一般入試から導入する。よって、4技能を総合的に育成する指導が今まで以上に強く求められることは必至である。

2016(平成28)年度からすべきこと

このような背景があって、「Can-Doリストの作成」「授業を基本的に英語で行うこと」といったことが文科省から中学校の現場に要請されている。

ONE WORLD English Courseでは、Can-Doリストをいち早く取り入れていた。英語の文型や構文、読んだり聞いたりした英文の

内容を理解することだけにとどまらず、英語を使う（話す・書く）力も育成できる教科書を目指してきた。

各パート、各レッスン、2～3つのレッスンが終わる時点で、生徒は「英語で何ができるようになるのか」を意識したうえで指導することが肝要である。英文は理解するためだけにあるのではなく、英語を使う活動につなげるためにある。よって、英文そのものも活動のモデルになるような英文で、内容的にも活動に発展しやすく、他教科の内容などともリンクしたものを*ONE WORLD*では提示している。

スピーキングやライティングという英語を使うスキルを向上させるには時間がかかる。また、段階を踏んで難易度を徐々にあげていかないと、なかなか上手にならない。

スピーキングに関して言えば、現在の小学校での外国語活動で培われてきたスピーキング力をベースに、中学校での活動にソフトランディングできるように、中学1年の最初の活動を細心の注意を払い開発した。

また、*ONE WORLD*は以前からActivity→Task→Projectと活動を無理なく進化させていくシラバスに則っている。さらに、Writing TipsやConversation Tipsといった、英語を使う「コツ」を体得するページも設けている。各学年に2～3つあるProjectにつながる授業を普段から心がけ、英語を使ってProjectに取り組むことをとおして生徒たちが達成感を覚えることが、英語好きの生徒になることにもつながる。

このような授業でのTaskやProjectに向けた活動を可能にするには、基礎・基本の定着ももちろん重要だ。これまでの*ONE WORLD*は英文や活動がやや難し過ぎるのではないか、というご指摘があったことを考

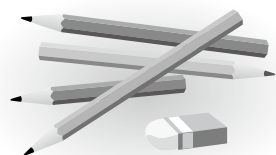
慮し、28年度版では生徒にとって分かりやすく興味をもてる英文にし、活動も生徒がより楽しく、無理なく取り組めるように工夫を凝らした。

そのうえ、基礎・基本の定着を確実にものにするために、簡単な言語活動を行うための別冊（*Essentials*）も付けることにした。これは、授業はもちろん家庭学習用としても大いに活用できるはずである。

さらに、生徒が誰でも無料で本文の音声（ネイティブ・スピーカーの吹き込み）を聞けるシステムを教育出版のウェブサイトから提供する。これまで、自宅で学習する際にモデルとなる音声を使っていないことにより、リスニング力や発音に問題のある生徒が多かった。しかし、これからは本文の音声を使った家庭学習ができるようになり、基礎・基本の定着に役立つはずだ。

2020年は英語教育にとって大きな節目になる年だと予想されているが、東京オリンピック・パラリンピック開催の年でもある。2016年度から*ONE WORLD*を使う生徒たちは、2020年には高校生、大学生、社会人になっている。その彼ら・彼女らが世界の人たちを英語でおもてなしできるようになっていて、将来的にはグローバルに活躍できる資質を持ち合わせていることが、これからの英語教育の成果として期待されるはずである。

生徒一人ひとりが自信をもって英語を使えるようになるために、指導しようではありませんか！



CAN-DOリストと言語活動

千代田区立九段中等教育学校 本多 敏幸

1. はじめに

平成23年6月に発表された「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」において、各中・高等学校が学習指導要領に基づき、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で具体的に設定することについての提言がなされました。これを受けて、平成25年3月には、「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DOリスト』の形で学習到達目標設定のための手引き」が公表されました。

学習指導要領における外国語科の目標の1つが「コミュニケーション能力の育成」です。この目標を達成するために、外国語表現の能力である「話すこと」と「書くこと」、外国語

理解の能力である「聞くこと」と「読むこと」の4つの技能について、具体的な学習到達目標を各校で設定することになっています。

では、中学校ではどのようにして、どのような到達目標を設定したらよいのでしょうか。私たち教師は日々の授業で教科書を使って指導しているので、教科書に載っているさまざまな言語活動が到達目標を設定するための拠り所となります。たとえば、スピーチ活動をいくつか載せている教科書では、スピーチ活動を通して自分のことや自分の考えなどを伝える力が身につきます。このことから、「準備をすれば、自分がしたことや将来の夢について短いスピーチをすることができる」といった学習到達目標を設定することが考えられます。

紙面例1 2年本冊 pp.142-143

準備をすれば、自分がしたことや将来の夢について短いスピーチをすることができる。

付録

Can-Do 自己チェックリスト

自己評価のマークを○で囲もう。

	2年学習到達目標	関連箇所	自己評価
読むこと	意味など自分のなじみのある話題に関して、簡単な質問の答をすることができる。	異文化を扱っている各PartのActivity 2, Task, Project など	😊 😐 😞 ☹️
読むこと	学校生活などの身近な話題であれば、感想を交えながら会話することができる。	Time for a Skill, Conversation Tips など	😊 😐 😞 ☹️
読むこと	準備をすれば、自分がしたことや将来の夢について短いスピーチをすることができる。	Project 2 など	😊 😐 😞 ☹️
書くこと	自分が読んだしたことやその感想などについて数文を書くことができる。	Lesson 1, Project 1, など	😊 😐 😞 ☹️
書くこと	自分の意見を載せた簡単なレポート・新聞・日記などを書くことができる。	Project 1, 3 など	😊 😐 😞 ☹️
書くこと	趣味や学校について、つながりのある数文の文章を書くことができる。	各課各PartのActivity 3, Writing Tips, Project など	😊 😐 😞 ☹️
聞くこと	ゆっくり話してもらえば、活動のやり方などの説明を聞いて、理解することができる。	授業における説明など	😊 😐 😞 ☹️
聞くこと	自分自身や学校・地域などの身のまわりの話題についてのスピーチを聞いて、理解することができる。	Task 2 (Listening), Project 2 など	😊 😐 😞 ☹️
聞くこと	日常生活の身近な話題についての話を聞いて、具体的なことを聞き取ることができる。	各課各PartのActivity 1, Listening Tips など	😊 😐 😞 ☹️
読むこと	スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のある話題に関する文章を読んで、その趣意を理解できる。	各課の本文など	😊 😐 😞 ☹️
読むこと	短い文章を読んでそれが何を言っているのか具体的に理解することができる。	各課の本文, Reading Tips など	😊 😐 😞 ☹️
読むこと	簡単な語で書かれた短い物語や説明を読んで、イラストや写真を参考にしながら趣意を理解することができる。	各課の本文, Reading Lesson など	😊 😐 😞 ☹️

	1年学習到達目標
読むこと	国語、算数、人間などについて、質問をしたり、質問に答えたりできる。
読むこと	スポーツや食生活などの身近な話題であれば、短い会話をするができる。
書くこと	準備をすれば、短いスピーチをすることができる。
書くこと	自分のことや他人のことについて、つながりのある数文の文章を書くことができる。
書くこと	趣味や学校の身近な話題について、数文をいくつか書くことができる。
聞くこと	ゆっくり話してもらえば、活動のやり方などの説明を聞いて、理解することができる。
聞くこと	自分自身や学校・地域などの身のまわりの話題についてのスピーチを聞いて、理解することができる。
聞くこと	日常生活の身近な話題についての話を聞いて、具体的なことを聞き取ることができる。
読むこと	スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のある話題に関する文章を読んで、その趣意を理解できる。
読むこと	短い文章を読んでそれが何を言っているのか具体的に理解することができる。
読むこと	簡単な語で書かれた短い物語や説明を読んで、イラストや写真を参考にしながら趣意を理解することができる。

	3年学習到達目標
読むこと	相手の話でわからぬ点について、質問したり聞き返したりすることができる。
読むこと	簡単な文章や簡単な文法を使って、自分の意見を伝えることができる。
書くこと	準備をすれば、身近な話題について、聞き手にならう短いスピーチをすることができる。
書くこと	自分の意見や感想を短く書くことができる。
書くこと	新聞・レポート・ガイドブックなどの形式で、身近なことを短く書くことができる。
書くこと	趣味や学校について、つながりのある数文の文章を書くことができる。
聞くこと	教科書の内容や課題などについて、はっきりと説明を聞いて、意図を理解することができる。
聞くこと	自分の話の要点やキーワードを聞き取って、内容を理解することができる。
聞くこと	日常生活に関する身近な話題についての話を聞いて、詳細（しょうさい）を聞き取ることができる。
読むこと	料理レシピやもののつくり方についての説明を読んで、内容を理解することができる。
読むこと	物語を読んで、登場人物の感情や行動を推察し、内容を理解することができる。
読むこと	簡単な語で書かれたまとまりのある文章を、初級で読んで、趣意を理解することができる。

2. ONE WORLDにおける学習到達目標

ONE WORLD English Courseでは、従来から到達目標を設定しています。平成18年度版および平成24年度版（現行版）には、到達目標を各ユニットの扉に明記し、そのユニットを学習するとどのような力が身につくのかを学習者である生徒が理解できるようにしています。平成28年度版ONE WORLDでは、「Can-Do自己チェックリスト」を巻末に掲載しています（紙面例1参照）。

従来の学習到達目標の表し方から大きく変更した点は、年間の目標として設定したこと、どの学年においても3年間ぶんの学習到達目標を明示していることです。これまではユニットの冒頭でそのユニットの目標だけがわかる形式でしたが、3年間ぶんの学習到達目標を示すことにより、今後の学習でどのような力が身につけられるのかを見通すことができるとともに、これまでにどのような力が身につけられたのかを振り返ることができるようにしました。

ONE WORLDのCan-Do自己チェックリストは「教師と生徒が共有できる学習到達目標」を目指しています。教科書や教室内で想定する活動をもとに学習到達目標を考え、それを生徒の目線に合わせて能力記述文で表しています。また、当該学年の各学習到達目標には「自己評価」の欄を設けています。生徒が授業やテストなどで行った自分自身のパフォーマンスを振り返り、その達成度を確認する機会を設けられるようにしています。

3. 年間指導評価計画との関連

年間指導評価計画には各単元の評価規準を掲載しています。そして、「外国語表現の能力」および「外国語理解の能力」の評価規準の中でCan-Doリストの学習到達目標と関連するものについては、表中に示し、各学校においてCan-Doリストを作成する際の参考になるようにしています。（右上の表は、「年間指導評価計画案」のうち「評価計画案」部分を示しています。）

Lesson	評価規準 （「関心」＝コミュニケーションへの関心・意欲・態度、「表現」＝外国語表現の能力、「理解」＝外国語理解の能力、「知識」＝言語や文化についての知識・理解）	評価規準メモ	評価の方法 （具体的な評価方法例）	Can-Doとの関連
Lesson 5＋英語のしくみ4	関心	L…ActivityやTaskなどの活動や教室の話す活動を聞いて、内容を理解しようとしている。	言語活動への取り組み	活動中の観察（総括的に観察評価していく）
	関心	S…ActivityやTaskなどの話す活動において、学んだ表現を積極的に使っている。	言語活動への取り組み	活動中の観察（ActivityやTaskなどの活動）
	表現	S…人物紹介のスピーチを聞き手に分かりやすくすることができる。	適切な発話	スピーチの評価（例：人物紹介を発表する形式）
	表現	R…正しい発音、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。	正確な音読	音読テスト（教科書本文の音読）
	表現	W…人物を説明した簡単なポスターを書くことができる。	適切な筆記	作品（例：人物の紹介ポスター）
	理解	L…後置修飾の含まれる事物などの説明を聞いて、内容を理解することができる。	適切な聞き取り	リスニングテスト（例：ニュース設定で、内容を聞いて、内容に関する質問に答える形式）
	理解	R…事物について説明した文章を読んで、内容を正しく理解できる。	正確な読み取り	ペーパーテスト（例：文章を読んで、内容に関する質問に答える形式）
	知識	R…名詞の後置修飾についての知識を身に付けている。	言語についての知識	ペーパーテスト（例：語句を正しく並べ替える形式）
	知識	W…よく使われる語句を正しいつづりで書くことができる。	言語についての知識	単語テスト
	知識			

4. 学習到達目標を達成するための言語活動

学習到達目標として設定した技能を身につけさせるためには、授業で実際にパフォーマンスをさせる必要があります。ONE WORLDでは、平成18年度版より各学年に3つ程度のProject（プロジェクト活動）を配置しています。このProjectを行うことにより、教科書の学習を通して身につけた知識や各技能を総合的に使用する機会が与えられています。これらの言語活動が中期的な達成目標と言ってもよいでしょう（次頁の紙面例2参照）。

平成28年度版ONE WORLDのレッスンは、Hop（Part 1, 2）とStep（Part 3, 4）の2部構成となっています。Hopでは生徒が使う語彙の補充（Tool Kit）、聞くこと、話すこと、書くことの活動（Activity）を設けています。これらのページを行うことにより、CAN-DOリストの学習到達目標を達成するための基礎・基本となる力を養うことができます。たとえば、2年の書くことの学習到達目標には「趣味や事物について、つながりのある数文の文章を書くことができる」と設定しています。つながりのある文章を書けるようにするためには、文法のターゲットとなる1文だけを書かせるだけではなく、つながりのある複数の文を頻繁に書かせることが不可欠です。そこで、HopのActivity 3では、複数の文を書かせるタスクを設定し、

紙面例2 3年本冊 pp.38-39

Jump Project 1

自分たちの町のガイドブックをつくらう！

外国からのお客さん、ALT、海外の友人などに自分たちの町の人気スポット、お祭りレストラン、おもしろい店、住んでいる有名人などの情報を盛りこんだ英語のガイドブックを作成して紹介しよう。

Speak Write Listen Read

目標：構成を考えて、自分たちの町のガイドブックをつくれる Can-Do

3. 横浜の生徒たちが作ったガイドブックの例を見て、自分たちのガイドブックに参考しよう。

Yokohama Chinatown

The closest stations to Yokohama Chinatown are Motomachi-Chukagai Station and Ishikawacho Station.

4. グループで、あなたの町を紹介するガイドブックをつくる準備をしよう。何をどのような理由で紹介するかをメモを取りながら話し合おう。

場所/店/人など	理由

紙面例3 2年本冊 p.47

3. Write

例にならって、あなたの家の近くや街にあるものを紹介しよう。

例 There is a good restaurant near my house. My family and I sometimes eat dinner there.

生徒に文脈を考えさせる習慣を身につけさせるようにしています（紙面例3参照）。

さらに、Listening Tips, Reading Tips, Writing Tips, Conversation Tipsを随所に配置し、英文を聞いたり読んだり書いたりするコツ、会話を行う際のコツが身につけられるようにしています。たとえば、2年次の話すことの学習到達目標として、「学校生活などの身近な話題であれば、感想を交えながら会話をすることができる」を設定しています。これを達成するために、1年次のConversation Tipsでは、「相づちを打ちながら相手の話を聞くこと」、2年次では、「感想を交えながら話すこと」、「相手の言ったことに対して質問すること」の練習コーナーを設けています（紙面例4参照）。

5. 評価について

個々の生徒がCan-Doリストの学習到達目標を達成しているかを評価する必要があります。パフォーマンスを評価するためには時間が必要です。学習指導評価計画の配当時間に

は、言語活動を多く設定し、評価できるように余裕のある時間配当を行っています。また、各評価基準の具体的な評価方法を教師用指導書（評価編）で紹介しています。

6. おわりに

ONE WORLD English Courseでは、到達目標を達成するために最適な教科書づくりを従来から行っています。ONE WORLDを使って生徒のコミュニケーション能力を身につけていただけることを願っております。

紙面例4 2年本冊 p.42

Conversation Tips 2

目標：会話を長く続けることができる Can-Do

相手の言ったことに対して、質問しよう。

How was your summer vacation?

It was great! I visited my grandparents.

Oh, really? Where do they live?

They live in Kochi.

Tips コツ

関連する質問をすることで、相手の話に興味をもって聞いているというサインになり、また会話を続けていくことができます。

質問の例

- I went to Sapporo.
 - When did you go?
 - Who did you go with?
 - What did you do there?
- I read a comic book.
 - What did you read?
 - Was it fun?
 - Is it a new book?

基礎的・基本的な力を養う

——教科書を使って——

東京学芸大学附属竹早中学校 金枝 岳晴

1. 声に出して言う

電話帳を見ながら電話をかけるとき、その電話番号を「声に出しながら」ダイアルすることはありますか。誰かにその番号を聞かせたいわけでもないのに、どうして声に出して番号を言うのでしょうか。

人間の脳は、忘れることの名人のようです。ただ耳で聞いたことは、ほんの7秒程度で忘れてしまうというお話を伺ったことがあります。ところが自分の声に出して言ったものを自分の耳で聞くと、その記憶の保持時間が延びるのだそうです。つまり、私たちは無意識のうちにこの原理を利用して、電話番号を間違えないように、自分の声に出して言うことで短期記憶に残そうとしているのです。

外国語の学習でも同じことが言えそうです。先生が示した新文型を「ただ聞いているだけ」では、生徒の頭には残りにくいでしょう。よくわかるように導入できたら、それを言わせてみる、という順序が大切です。

2. 新文法事項の導入と教科書

新文法事項の導入では、生徒にわかりやすい言語の使用場面を示す必要があります。教科書の本文は、その場面がきちんと設定されているので、うまく利用するとよいでしょう。

例えば、1年Lesson 6 Part 2（次頁の紙面例1参照）では、疑問詞whereがターゲットです。この本文中でBobとAyaが次のような対話をしています。

Bob : In America, we don't eat lunch in classrooms.

I like this Japanese style.

Aya : Where do you eat?

Bobは「教室では昼食を食べない」と言っています。その発言を受けて、AyaはWhere do you eat? と質問しています。この場面から、whereが意味することの推測がしやすくなるはずです。

このような場面を利用して、次のような導入を試みます。

T : (太郎の絵を貼って) Look at this boy.
This is Taro. He eats lunch in his classroom. (太郎の絵の下にin his classroomと書いたカードを貼る。)

T : (次郎の絵を貼って) This is Jiro. Does he eat lunch in his classroom, too? No, he doesn't. He eats lunch in the yard. (次郎の絵の下にin the yardと書いたカードを貼る。)

T : (Bobの絵を貼って) This is Bob. Does he eat lunch in his classroom? In the yard? (Bobの絵の下にクエスチョンマーク“?”を貼り、Bobの絵に向かって) Bob, where do you eat lunch?

導入としてはこのような例を2～3聞かせて、whereの用法のイメージをつかませます。できれば一般動詞を用いた例ばかりでなく、be動詞を用いた“Where is ...?”の文も導入しておくといよいでしょう。

3. 意味の確認とmim-mem

導入した新文法事項が理解できたか確認します。日本語で意味を言わせたり、どんな表現を使っていたか言わせたりするなど、方法は1つではありません。

生徒が新文型を正しく理解できたら、その文を言わせます。mim-mem (mimicry-

紙面例1 1年本冊 pp.76-77

Hop

Part 2 目標：場所についての情報を交換することができる

ボブとアヤが教室で昼食を食べながら、話しています。

単語

- ☐ classroom
- ☐ style
- ☐ where
- ☐ cafeteria
- ☐ buy
- ☐ food
- ☐ classmate(s)
- ☐ bring

Bob: In America, we don't eat lunch in classrooms.
I like this Japanese style.

Aya: Where do you eat?

Bob: In the cafeteria. We buy food there.

Aya: Really?

Bob: Yes, but some of my classmates bring lunch from home.



基本文

Where is your school?
— It's in Minami-cho.

Where do you eat lunch?
— We eat it in the cafeteria.

ここぞポイント

※「どこで、どこに」とたずねるときには、whereを使います。
※ whereで始まる文の最後には、「?」をつけます。

Activity

単語を教えるツール

Where is your computer?
— It's on the desk.

1 your computer / on the desk



2 your cat / under the desk



3 your uniform / in my bag



4 your racket / by the window



5 your cellphone / on my bed



6 your school / near the train station



単語

- ☐ computer
- ☐ desk
- ☐ cat
- ☐ under
- ☐ uniform
- ☐ bag
- ☐ by
- ☐ window
- ☐ cellphone
- ☐ near
- ☐ train
- ☐ station

1. 対話を聞いて、() に適切な単語を選んで記号を圈こう。

1 昼食は()で食べる。
2 教科書は()に置く。
3 ノートは()で買う。

単語

A 教室 B 食堂
C ロッカー D 机の中
E 売店

2. 写真を見て、例にならって対話をしよう。

Where do you come from?
— I come from Singapore.

Singapore Australia America

3. 次の①②が提示する質問文を書こう。

① It's on my desk.
② It's in my bag.

※ [a.] under, study, dream

memorization practice) と呼ばれるもので、教師やCDのモデルを聞かせ、それを正しく真似して言わせる活動です。

このときにはまだ文字は見せない方がよいでしょう。文字を見せると、文字の音声化という要素が加わり、生徒の負荷が高くなるからです。

4. 新文法事項の定着を高める活動

導入された英文が言えるようになっただけでは、その構文を使って表現できるようにはなりません。同じ構文であっても、別の語句を使っても同じ構文が正しく言えるようにならなければ、その構文が使えるようになったとは言えないでしょう。そこで、whereを用いた文を、さまざまな語句を用いて練習します。いわゆるpattern practiceです。

平成28年度版ONE WORLDには、このpattern practiceを通して新文型の定着が図れるように、Hop (各Lesson のPart 1, 2)

のActivityにTool Kitが用意されています。

このコーナーの扱い方はいろいろと工夫することができるでしょう。例えば、最初は文字を見せないで、教師の指示に従って英文を言わせてみる。次に生徒をペアにして、教科書を見ながらペアで活動するなどです。

【例】

Where is your computer? — It's on the desk.の文を何回か言う練習をしたあとで。

T : Repeat after me. Where is your computer?

Ss : Where is your computer?

T : Your cat. S1.

S1 : Where is your cat?

T : Class!

Ss : Where is your cat?

T : Under the desk. S2.

S2 : It's under the desk.

T : Class!

Ss : It's under the desk.

ペアで行う場合は、教師の言うcueを生徒が言ったり、前頁の例のように対話練習したりするとよいでしょう。

またTool Kitでは、教科書本文に登場していない語句を学ぶことができるようになっています。現行の学習指導要領では、中学校で学習する語を1200語程度としています。絵を見ながら語の意味を推測させたり、必要があれば教師が意味や用法を説明したりしながら活動の中で使っていくとよいでしょう。

5. 母語を用いたまとめ

今後は中学校においても、英語の授業は基本的に英語で行うことが求められるようになります。生徒が多くの英語を聞いたり読んだりし、また、多くの英語を言ったり書いたりすることは確かに必要なことでしょう。

しかし、授業の全てを英語だけで行うことが本当に基礎・基本の定着に役立つかどうかはよく考える必要があります。特に新文型のつまずきやすいポイントを理解して、使えるようにするには、母語による解説はどうしても必要になるでしょう。

例えばcanを学習したあとで、「単数主語であっても、動詞に-(e)sはつかない」などといったポイントは、母語で指導しておきたいものです。

平成28年度版ONE WORLDでは、各パートの「基本文」のそばに、「ここがポイント」として、新文法事項のポイントを日本語で簡潔に説明しています。また、「英語のしくみ」というページが設けられており、ある程度まとまった文法事項を生徒にわかりやすく解説しています。

疑問詞whereを例にとってみると、初出の1年p. 76に「ここがポイント」がありますが、p. 95の「英語のしくみ」では、「疑問詞を用いた疑問文」についてまとめています(紙面例2参照)。このようなページを利用して文法のまとめをすることは、生徒の定着を高めることにつながるでしょう。

紙面例2 1年本冊 p.95

英語のしくみ 疑問詞を用いた疑問文

6

1. what / who / whose / when / where / how などの基本的な意味

what どんなもの、何 who どんな人、だれ whose だれの、だれのもの when どんな時、いつ where どんな場所、どこ、どこで、どこに which どれ、どちら how どんな方法、どんな様子、どのくらい	What do you have in your bag? どんなもの →あなたは何を持っていますか →かばんの中に？ (かばんの中に何を持っているのですか)？ Who is that man? どんな人 →あの男の人？ (あの男の人はだれですか)？ When is your birthday? どんな時 →あなたの誕生日は？ (あなたの誕生日はいつですか)？ Where do you play soccer? どんな場所 →あなたはサッカーをしますか。 (あなたはどこでサッカーをしますか)？ How do you come to school? どんな方法 →あなたは学校に来ますか。 (どうやって学校に通っていますか)？
--	---

※質問文は疑問文の構造に準じます。

2. 「What / Whose / Which + 名詞」、「How + 形容詞」

What + 名詞 What sports (どんなスポーツ) など What time (何時) など Whose + 名詞 Whose book (だれの本) など Which + 名詞 Which buses (どのバス) など	What food do you like? どんな食べ物 →あなたは好きですか。 (どんな食べ物も好きですか)？ Whose bike is this? だれのもの →これは？ (これはだれのものですか)？ Which season do you like, spring or fall? どちらの季節 →あなたは好きですか。一春、それとも秋？
---	---

6. 活動を通じた定着

教科書を通じて学習した表現を用いて活動をさせると、定着はさらに高まります。このような活動のために、各LessonにTaskが用意されています。

このTaskでは、同じ言語材料を扱いながらも、やや自由度の高い、自己表現につながるような内容になっています。例えば、p. 82のTask 2(紙面例3参照)では、自分がスポーツ選手かミュージシャンになったという設定でインタビューに答える活動で、whenやwhereを用いた質問に対して、自分で答えを考えて述べる活動になっています。

平成28年度版ONE WORLDは、「基礎・基本」が身につくようにページに工夫を凝らしています。ぜひ利用していただきたいと思います。

紙面例3 1年本冊 p.82

Speak ペアになり、ひとりスポーツ選手かミュージシャンに、もうひとりがレポーターになって、インタビューしよう。

2.

野球選手に

A: When is your next game?
 B: It's on November 21st.
 A: Where is the game?
 B: It's in Yokohama.



小学校外国語活動との連携

京都教育大学 泉 恵美子

1. 変わる小学校英語と小中英語の違い

2020年度より、小学校英語が中学年で活動型、高学年で教科型として必修化されることが決まった。移行措置期間として2018年度より随時実施される予定である。時間数については、中学年で週1～2時間程度、高学年では週3時間程度と提案され、検討されている。いずれ正式に決定されるであろう。小学校英語が教科化されれば、教科書もでき、中学校英語も大きく変わることになる。しかしながら、現在は小学校高学年で『外国語活動』が年間35時間必修として、主に学級担任とALTやJTEとのチームティーチングや担任がソロで指導している。

学習指導要領の目標には、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」となっており、主に体験的活動を通して英語の音声や表現に慣れ親しませ、中学校と同様にコミュニケーション能力を育成することが大きな目的となっている。文部科学省は補助教材として、『Hi, friends! 1 & 2』を作成し、全国の5・6年生の児童に配布し、準拠CD、デジタル版、指導資料等が各学校に配布されている。小学校の授業では歌やチャンツ、クイズやゲーム、コミュニケーション活動や劇、絵本といった様々な楽しい活動や教材を用いて英語の音声をつまみ導き、身体を使って英語の意味を理解させたり日本語と異なるリズムや発音などに気づかせたりといった指導がなされており、英語を覚えたり定着させたりといったことは現段階では想定されていない。技能も聞

くこと、話すことが中心であり、小学校で音声を中心であったものを、中学校では読むこと、書くことが入り、文法事項の理解、定着まで丁寧につなげていくことが必要となる。英語嫌いや苦手意識を持つ生徒が生まれないように、小学校英語の良さを引き継ぎ、小中の段差を低くし、ソフトランディングさせるとともに、英語学習に対する動機づけや「活動」から「学習」へと意識の転換を図ることも必要である。

2. ONE WORLD English Courseの 小中連携と接続

28年度版では随所に小中連携の視点を取り入れ、無理なく小中接続が出来るように工夫されている。指導内容や到達目標の系統性、指導方法の継続性、小中連携カリキュラムを意識してSpringboard 1～10を配列しており、それらを活用することで、小中接続がスムーズに進み、小学校で楽しく学び馴染みのある語彙や英語表現を思い出させながら、内容を復習し、さらに文字指導につなげていくことができるよう、十分な活動が用意されている。

例えばSpringboard 1「あいさつをしよう」では、先生と生徒、生徒同士が英語であいさつを交わす場面が設定されているが、音声で繰り返し用いた表現を英語でも目にすることが出来る。Springboard 2「こんなときはこう言おう」では、授業で用いる教室英語を取り上げ、最初から無理なく英語の授業を英語で行うことが可能となる。また、TPRを用いたサイモン・セズ・ゲームは小学校でもよく使われているので、楽しく身体を用いて教室英語を場面と共に習得させたい。

Springboard 3, 4「身のまわりの英語」

では、小学校で取り上げた語彙を復習しつつ、音声－意味－形式（つづり）を繋げる活動となっている。テーマとしては、自分の部屋、教室、公園、食べ物、フルーツ、野菜、スポーツ、楽器、国、職業と、小学校で慣れ親しんだ内容である。活動は、自分で絵をヒントに英語を言わせたり、英語を聞いて選ばせたり、タッチング・ゲームやスリーヒント・ゲームといった小学校で行ったタスクを用いて、個人、ペアやグループで楽しく復習しながら、語彙や表現の整理ができる内容となっている。そして最後には自分の好きなもの、出来ること、行きたい国、将来の夢などを言わせ、自己表現活動へとつなげていく。小学校卒業時の外国語活動の内容を、中学校の入門期に振り返らせることで生徒には外国語活動の学習内容を思い出させ、教師は生徒の習熟度合いを確認できる。また、外国語活動で取り扱ったその他の語彙（月、天気、気持ちなど）も、Time for Wordsや巻末Words &

Wordsでまとめて整理することができる。

Springboard 5「アルファベットに親しもう」では、アルファベットの大字・小文字の形と順番を認識し、音に気づき、読み方が分かり、文字と小文字を繋げることが出来るかどうかを確認する活動になっている。小学校でも用いたアルファベット迷路を取り入れ、楽しく文字に慣れさせる活動を設定してある。また、巻末のキーボードを用いてアルファベットを探すなど日常で役立つ活動も取り入れられておりICT活用にもつなげたい。

Springboard 6「アルファベットの音とつづりに親しもう」では、アルファベットの音とつづりを結び付け、絵を見て単語を発音させながら音とつづりの関係に気づかせる活動を取り入れることで、音韻認識を高め、フォニックスの基本である1文字1音を取り入れたアルファベットジングルから、音の足し算や音を聞いて3文字単語が分かるといった活動が取り上げている。絵の

紙面例1 教科書pp.8-9

Springboard 1 身のまわりの英語 ②

- 英語を聞いて、タッチング・ゲームをしよう。
- 英語を聞いて、3ヒントワイズに答えよう。
- 自分のことについて書いてみよう。

タッチング・ゲーム
ベアグループになって、聞こえた単語の絵をタッチしよう。早くタッチできた人が勝ち。

apples	bananas	grapes	peaches	carrots
green peppers	onions	curry and rice	pizza	spaghetti
badminton	baseball	basketball	soccer	volleyball
guitar	harmonica	piano	recorder	violin

※参考 Words & Words「食べもの・遊びもの」(紙面転写)

baseball player	bus driver	comedian	cook	doctor
farmer	florist	photographer	singer	teacher

3ヒントワイズ
主人公たちが誰について言うのかわからない単語を聞いて、それが誰か答えよう。

Ayaka

Bob

Kenzo

Mei

8 | eight
9 | nine

紙面例2 p.13

2. 英語を聞いて、それぞれの単語を声に出して読もう。

D dog 	E egg 	F fish
J juice 	K king 	L lemon
P piano 	Q question 	R rabbit
V violin 	W watch 	X box

3. 英語を聞いて、 中の文字を塗りつぶそう。

① h a t ② j e t ③ p i g ④ d o g ⑤ c a p

Written | 13

中には初頭音と同じ単語がたくさん含まれており（Dの例：dog, doctor, desk, diamond, Decemberなど）、絵を用いて何度も聞かせたり言わせたりしたいものである。生徒に同じ音の他の単語を集めさせても楽しいであろう。

Springboard 7「数字」は、基本的な数字を復習した後、電話番号や数字の計算など小学校の他教科関連で行った活動を取り上げ、その後生徒同士でクイズを出させても楽しい活動になる。

Springboard 8「曜日と教科」は、曜日と教科を取り上げ、小学校で行った活動の振り返りとなっている。曜日や月など間違いやすい語は、歌やチャンツを用いて何度も繰り返し発話させ、自動化できるようにしたい。

Springboard 9「色」は「ほしいものゲーム」として友だちの好きなものを推測しながらペアで質問をし合うインフォーマー

ションギャップタスクになっている。

Springboard 10「名前を書こう」は教科書に登場する人物の名前と国名を聞かせてアルファベットをなぞって四線に書かせたり、巻末のローマ字表を用いて自分の名前を書かせ、ライティングの導入ができる内容である。

3. 小中連携の留意点

英語の語彙や表現は小中で共通のものが多く、これまで中学校で教えられてきたものの多くが小学校でも取り扱われている。しかしながら、小学校では、文字は音声によるコミュニケーションの補助として指導することになっている。そこで、*ONE WORLD English Course*は、小学校で聞く・話す活動を通して音声で親しんできたものを、中学校で明示的に文法規則や文字を示しながら理解させ、定着を図れるように、多くの絵などのヒントを与えつつ無理なく中学校英語に入っていけるように、文字も最初から目にする事が出来るテキスト構成になっている。

また、小学校では達成感を感じていた生徒が、中学校で4領域を扱う中でつまづきが見られることも多い。小学校では「言えた」、「伝えられた」、「相手のことが理解できた」など、英語を聞いて理解したり伝え合うことが大きなねらいであったが、中学校では「話したことを書けた」、「聞いたことを読んで正しく理解できた」といった正確性も求められる。楽しく文字に触れ、楽しく学ぶ文字指導や辞書指導を導入すること、異文化・自国文化の理解から、他者尊重・自己肯定感へとつながる学習内容を工夫することなどが大切とされており、Springboard等の有効活用が期待される。是非本書を積極的に活用して、生徒の有能感を高め、新しい友だちや先生との英語でのコミュニケーションを楽しみながら英語学習への扉を開きたい。

別冊 Essentials

津田塾大学大学院 野田 小枝子

1. 別冊のねらい

教科書編集は、常に現行の学習指導要領を見据えながら次の指導要領の方向性、次の時代の英語教育を視野に入れていかなければならない作業になります。平成20年に改訂され、24年度から施行されている中学校学習指導要領が目指すところは、「外国語」について言えば、「発信力」重視、「4技能の総合的育成」が大きな比重を占めると思います。そして、今後の英語教育の方向性を見るならば、ますます確実な基礎力と柔軟な発信力の育成が望まれるのは間違いありません。

しかし、教科書の本冊に取り込める活動や生徒が自分で学習する教材には限りがあります。「確実な基礎力」を育むには、生徒が自分で行う反復練習と少しでも多くのインプットが必要です。また、「柔軟な発信力」を培うには少しでも多くのアウトプットが必要です。

学習者が自己学習できるセット（a self-study kit）を提供し、かつ、基礎力・発信力をつけるインプット・アウトプットの材料を豊富に提供することは、教科書の役割として大切なことであると考えます。「確実な基礎力」、「柔軟な発信力」を育むツールとして、かつ学習者が自ら進んで学習できるツールとして活用していただける切り離し教材を提供すること、それが別冊のねらいです。

本誌7～9ページで金枝岳晴先生が説明しておられる「教科書を使った基礎・基本の定着」を図りながら、「教科書のあと」で別冊を使った活動を通してさらに定着をはかっていただければ、また、自己学習と組み合わせ「基礎・基本の定着」からより自由度の高い活動への準備として使っていただければと願っております。

2. 豊富なインプットを提供するPLUS DialogとアウトプットのためのPLUS Activity

まず、PLUS Dialogは、教科書と異なる文脈で基本文を用いた対話です。同じ基本文でもさまざまな文脈で触れさせ身につけるのが望ましく、もう1つdialogがあることで、それだけ多くのインプットに触れさせられます。

PLUS Dialogの活動は、まず、CDなどで音を聞くことから始まります。それを理解してから、友だちと対話を練習し、次に、下線部を変えて練習するようになっています。

PLUS Activityの活動では、さらにもう1歩進んで、与えられた話題を参考に、自由に話したり書いたりする活動です。こちらもしスニングで聞けるところが多くあります。対話をそっくり変えて練習してもかまいません。1年別冊 Lesson 4 Part 3のように作業してから対話する活動なども含まれています。クイズのようにすることで、意味のあるシチュエーションでの活動を作り出しています。

別冊に掲載のPLUS DialogとPLUS Activityは、インプットを増やして基礎力をつけるとともに、「使うことで定着させる」ためにアウトプットも増やすことをねらいとしています。

たとえば1年生Lesson 6 Part 4の本文では、オーストラリアの学校の時程について扱っています。言語材料は“how many”、“how long”の疑問文とその答え方を扱っており、目標は「ものの数や時間の長さについての情報を交換できる」となっています。

別冊のPLUS Dialogでは、ある人の出身国についてのやりとりになっています（次頁の紙面例1参照）。

この対話を“How long is the walk from your home to school?”、“How long is the bus ride to school?”なども使い、自分の町についての対話にしてもよいし、ある俳優や

紙面例1 1年別冊 p.31

Lesson 6 Part ② (教科書 p. 80～81)

【数や長さについてたずねる】

PLUS Dialog ②

Let's Try!

① How ^② (many) classes do you have today?
今日はどのくらいたくさん授業がありますか。

② Each student has a notebook.
生徒はそれぞれノートを持っています。

③ How many classes do you have ^④ (each) (day)?
あなたは何日1つの授業がありますか。

④ She has a ^⑤ (long) table.
彼女は長いテーブルを持っています。

⑤ How long is the lunch ^⑥ (break)?
昼休みはどのくらい長いですか。

⑥ They have a long break ^⑦ (between) second (and) third periods.
彼らは2学期めと3学期めの間に長い休みをとります。

⑦ How long is the class?
"It's fifty ^⑧ (minutes)."
"授業の長さはどれくらいですか?"
"50分です。"

⑧ We play in the schoolyard ^⑨ (or) eat snacks.
わたしたちは校庭で遊んだり、おやつを食べたりします。

And More Words
comic books マンガ about およそ、約

PLUS Activity ③

身のまわりのものについての対話です。
最初に英語を聞いて、ペアで対話しよう。
次に例を参考に、自由に対話しよう。

A: Japanese manga are very popular.
B: I like them, too.
A: Really? How many comic books do you have?
B: I have about twenty.

有名人などになりきって自分のことが言えるように準備しておいて答えさせてもよいでしょう。さらにPLUS Activityでは、Aは相手(B)が好きそうなものに話を向け、相手が相槌を打ったら how many を使って質問をするという対話が見されています。応用として、次のような会話もできます。

A: Do you like soccer?
B: Yes, I'm on the soccer team.
A: How many hours do you practice every day?
B: About one hour.

このような練習をし、使っていくことで基本文が身についていきます。この別冊を使うことで基本文の表現を使うさまざまな文脈のインプットが増え、使う機会も増えることになります。

3. 語彙の補充

補充語彙が必要な場合には、「And More Words」というコラムにまとめ、利用できる

ようにしています。

たとえば1年別冊p. 32のLesson 7 Part 1では、canの練習で“can speak”が出てきますが、「And More Words」で補充語としてFrench, Chinese, German, Koreanが提供されており、表現活動がスムーズに行えるしくみになっています。

また、1年別冊Lesson 4 Part 3のように「And More Words」のほかに既習の語句について「覚えているかな?」というコラムが設けられているところもあります。Plus Dialogで“I have a grandfather in Okinawa. He is so gentle.”という発話が出てくるので、他の親戚についても性格などが言えるようにするなど表現に使える既習の語彙が復習できるように工夫しています(紙面例2参照)。

紙面例2 1年別冊 p.19

覚えているかな?

- 親族
grandmother / cousin
- 性格
friendly / hard-working / kind / popular

4. Let's Try!

右段のLet's Try!では新出語や連語を含んだ文が、日本語とともに挙げられています。スペリングや日本語を確認しておくのに使えます。基本の反復練習は、定着のためには欠かせないことです。

この部分は自己学習に最適であり、自分でチェックする習慣がつけられる、いわばself-study kitです。Let's Try!で表現の口慣らしをしておいて、PLUS Dialogに進むのもよいでしょう。Let's Try!で自己学習をする➡PLUS Dialogでは新しい文脈で基本文を練習する➡PLUS Activityでさらに発展的な対話の練習や書く練習をする、という流れを作っていくのもよいかもしれません。

5. 談話の流れの重要さ

PLUS DialogもPLUS Activityも、対話の流れが自然になるように作られています。基本本文をセンテンス単位で練習していたのではいつまでたっても話せるようにも書けるようにもなれないでしょう。

別冊では、対話ならABAかABAB以上の長さとなっており、パラグラフなら一貫性のあるまとまった形が出ています。つまり、談話(discourse)の自然な構造をもった練習ができるという点でもコミュニケーション能力の育成にふさわしいものと言えます。

6. 「ことばの機能」の明示

各ページ、パートごとに、どのようなコミュニケーション機能を練習するのかを明示してあります。本文の目標に沿って、より簡潔に達成すべき機能目標を挙げており、意味重視のコミュニケーション活動をするのをねらいとしています。

7. まとめ

別冊 *Essentials* は、教科書で学習したことの定着を活動を通して図り、さらに表現の幅を広げていくことができるように作られています。

PLUS Dialog, PLUS Activityのリスニングの部分は教師がリードすることになりますが、対話などは生徒が自分たちで取り組む習慣がつけられるとよいと思います。

ここでは、別冊と教科書本文の関連と使用方法についての例を紹介します。

たとえば、2年生Lesson 5 Part 4の本文はハロウィーンの話で、言語材料は不定詞の形容詞用法です。Activityでも単語の穴埋めで不定詞の部分を入れさせる問題にとどまっています。それに対し、別冊のPLUS Dialogでは不定詞の部分を変えるのではなく、他の箇所を変えることで意味のある対話を作らせようとしています(紙面例3参照)。

紙面例3 2年別冊 p.24

[理由を言う]

PLUS Dialog



修学旅行

最初に英語を聞いて、ペアで対話しよう。
次に下線部を自由にかえて対話しよう。

A: Hey, do we have time to visit that shrine?

B: No, there's a long line. I don't want to wait.

A: There are so many famous shrines to see in Kyoto.

B: Right! We need to come back another day!

And More Words

shrine 神社 a long line 行列

Buddha statue 仏像 painting 絵画

amusement park 遊園地

attraction アトラクション

訪れるべき場所、ある場所で見ると入るべきものを入れさせて、発表させることができるような流れを作っています。

Bが「長い行列がある」、「また来なくては」などと言っているのに、Bのセリフが自然な文脈となるようにAのセリフを作らなくてはなりません。不定詞の部分の穴埋めをするよりもコミュニケーション活動になっています。

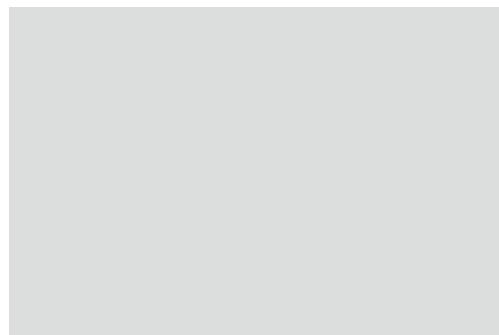
また、PLUS ActivityではLesson 8で登場する水問題の先取りをしています。不定詞が4つ出てくる文章で、ここでは「例を参考に書こう」となっていますが、学習者の作文力によっては、新しい文章を書かせるのではなく、これを読んで理解し、この5文を2~3文くらいの簡単な英語に書き直すなどの活動もできると考えられます。

【例】I learned about water problems in Africa. Many girls cannot go to school because they have to get water from rivers.

別冊の利用法はいろいろ可能かと思いますが、先生方のアイデアで活用していただければと思います。

Perhaps you'll find out.

●津田塾大学大学院 野田 小枝子



ガス・ヴァン・サント監督が2000年に発表した映画『小説家を見つけたら』(*Finding Forrester*)は、世間と交渉を絶ちアパートに一人で暮らす老小説家ウィリアム・フォレスター(ショーン・コネリー)と近くに住む黒人の高校生ジャマール・ウォレス(ロブ・ブラウン)との友情の物語です。舞台はニューヨークのブルックスです。

この作品は英語教師にとって非常に興味深い点がいくつも見られる映画です。まず、2人の中心人物の設定です。

フォレスターは50年前、23歳のときに *Avalon Landing* という小説を発表しましたが、その一作品だけで筆を絶ってしまい、買物にも人を雇って部屋にこもる生活をしています。外の世界に関心がないかと言えばそうではなく、近くでバスケットボールをする少年たちや鳥などを双眼鏡で観察するのが趣味のようです。

メディアと一切の交渉を絶って生活した小説家としては、J. D. サリンジャーが知られていますが、彼が亡くなったのは2010年ですので、この映画はサリンジャーの生存中に封切られたことになります。ただ、サリンジャーと大きく異なる点は、この映画の小説家が街の中に住んでいるということです。

なぜフォレスターは筆を絶ったのか、この

映画に出てくる理由にあまり説得力があるとは思えないのですが、とにかく彼はそのことについて誰にも知られたくない様子です。

一方、ジャマールは本を読んだり文章を書いたりするのが大好きで、父親が家を出て行った後、創作ノートに文章を書きためていますが、友人たちへの仲間意識からわざと低空飛行の成績を保ち、文章を書いていることは隠しています。

あるとき謎の老人のアパートに行き何かを持ち帰るという肝試し(dare)をするよう友人にけしかけられたジャマールは、老人の部屋に行ったものの、現れた老人に驚き自分のカバンを置いてきてしまいます。

次の日、老人はカバンをジャマールに投げ返してくれるのですが、その中にあったジャマールのノートのあちこちに *Constipated Thinking* (行き詰まった発想)、*This passage fantastic!!* (この文章すばらしい) など、細かくコメントが書きこまれていました。

ジャマールはこの人に文章の書き方を教わろうと思います。そのころジャマールの生活にも変化があり、SAT(標準テスト)で大変よい成績をとった彼に、トップの私立校から授業料免除で来るよう誘いがあり、その高校に通い始めます。あるとき国語(英語)の授業でフォレスターの *Avalon Landing* を読む宿題が出て、本の著者を調べるうちに、添削してくれた老人がフォレスターだということがわかります。

フォレスターの方でも、断っても何度も通ってくる少年に才能を感じたようで、自分のことを誰にも言わないこと、一作品しか書かなかった理由を聞かないことなどを条件に、作文を見ることを約束します。

この直後に、次のやりとりがあります。

Jamal: What's it feel like?

(どんな感じなの?)

Forrester: What?

(何が?)

Jamal: Writing something the way you did.

(あんなすごい文章を書くっていうのは。)

Forrester: Perhaps you'll find out.

(今にたぶん君にもわかるよ。)

この最後のセリフは、言い換えれば、If you work hard, I'm sure you'll be able to write like me.と言っているのです。ジャマールにとって嬉しいセリフです。

一方ジャマールも、外に出ようとしないうォレスターを誕生日に連れ出し、彼が少年の頃よく行ったヤンキースタジアムに案内するなど、フォレスターを喜ばせます。

新しい学校では年一度の作文コンテストがあり、優勝者には皆の前で朗読する権利が与えられます。ジャマールも作品を提出しますが、国語のクロフォード先生(F・マーリー・エイブラハム)は黒人の学生が作文に秀でているわけではないと思いこみ、どこかから借りてきたに違いないとジャマールを問い詰めます。黒人学生への思い込みが邪魔をして、ジャマールの本当の姿が見えないのです。マーリー・エイブラハムは映画『アマデウス』(Amadeus, 1984年公開)の中でモーツァルトの才能に嫉妬する同時代の音楽家サリエリ役を好演しましたが、似た役回りと言えます。

ジャマールが書いた作品が以前フォレスターが雑誌に書いた文章と同じタイトルだったことから、この作品をコンテストから除外し、さらにバスケも禁じるべきと主張するクロフォード。バスケの試合で学校を勝たせてくれたら帳消しにするという先生も現れますが、ジャマールは学校への抗議のため、肝心なところでわざとボールを外します。

ジャマールのピンチです。彼は退学になるのか。そして迎えた優勝作品朗読の日。外に出なかったはずのフォレスターが教室に来

て、"Professor Crawford. May I read a few words?"と言います。クロフォードが喜んで許可すると、フォレスターは朗読を始めます。朗読が終わった時、「なぜこのような栄誉を賜ったのでしょうか。」と尋ねるクロフォードに、フォレスターは友だちが朗読するのを許されなかったからと答えます。そしてさらに次のように続けます。

Forrester: There's one more issue here.

Those words that I read today.... I didn't write them. Jamal Wallace did.

(もう一つ大事なことがあります。今日私が読んだのは、私が書いたものではありません。ジャマール・ウォレスが書いたものです。)

教室は拍手と称賛の声で満たされますが、クロフォードはそれでもジャマールの処分は変わらないと主張します。しかし、最後には校長先生がジャマールの処分を撤回すると言い渡します。

上の場面がこの映画のクライマックスです。この他に教師として面白いと思えるのは、接続詞を文頭に置くこと(And....など)についてのフォレスターとジャマールの議論、友人を授業中に問い詰めたクロフォードに、ジャマールが文法の知識(fartherとfurtherの違い)および作家名と引用文の知識(Dickens, Kipling, Shaw, Mark Twain)などで挑み、教室を追出される場面などです。

ジャマールが以前通学していたブロンクスの高校でPoeの"The Raven"を題材にした授業を受けている場面がありますが、「読んでません。」などとわざと答えていたジャマールとも対比されると面白いと思います。

ショーン・コネリーの深みのある演技、ロブ・ブラウンのわざと表情に感情を見せない演技も、話し手の文化背景を反映させるように製作されていて楽しめます。

A Modern Dinosaur?

Peter J. Collins
Tokai University

“What? You still don’t have a smart phone? You’re such a **dinosaur!**”

For years, people have scolded me for stubbornly holding on to my old flip phone. Gradually becoming a dinosaur – someone who is out of touch with current trends – strikes me as healthier than trying to keep up. I often find myself waiting while friends compulsively update their Facebook status on the train or look for “**Wi-Fi hotspot**” signs in coffee shop windows. I’ve also wondered why people enjoy **second screening** – simultaneously watching TV and checking a mobile device. I’ve managed to avoid being **hyperconnected** myself, but I’m getting tired of continually admitting to people that I’m not on Skype. Or Twitter. Or Line. Or Ello. Or Pinterest...

When and how did we get used to these levels of **hyperconnectivity**? The annual “Words of the Year” lists, released by the American Dialect Society since 1990, provide some insights. The 1993 Word of the Year was **information superhighway**; in 1995, it was **World Wide Web**. These sound dated now, but at the time, they were hot new buzzwords. 1998’s Word of the Year was the prefix e-, which stood for “electronic” and was first used

in terms like **e-mail** and **e-commerce**. These days, of course, we have everything from **e-banking** and **e-taxes** to **e-books** and **e-vites**, which are online invitations and reminders.

A candidate for the 2002 Word of the Year in 2002 was the verb **google**, borrowed from the world’s leading search engine; in 2009 it was named Word of the Decade! This verb belongs to a special category of word: **generonyms**, which are trademarked product names evolving into generic words like **kleenex** or **band-aid**. Not surprisingly, a number of Google-related terms have been coined since 2009, including **Google bomb**. This describes an effort to manipulate Google search results, sending users to another site for political or comedic purposes. The first Google bomb was in 1999; a search on “more evil than Satan himself” led people to the Microsoft homepage.

More recently, the suffix “-itis” has been added to **google**, suggesting an abnormal condition. People who get all their knowledge from the Internet are said to suffer from **Googlitis**. Similarly, the suffix “-mentia” is tacked on, forming **Googlementia**. This occurs when someone forgets what they were planning to do a search on. One of my favorite search-related terms is the verb **egosurf**; people are guilty of this when they do Internet searches on themselves!

“Savvy,” which emerged from the French “*Savez-vous?*” or “Do you know?” in the late 1700s, has been added to “tech” to describe people with a good understanding of computer hardware and software. I may not be as **tech-savvy** as some of the people around me, but I’ve achieved a certain level of **technoliteracy**. I know my way around my computer’s most

important functions and try to keep up with security updates so I won't have to worry about problems with **the Interwebs**. I love this ironic term spoofing people who have so little idea about the online world that they confuse – and pluralize – the terms “Internet” and “web.” It also suggests gullibility; you can imagine someone saying, “The US president secretly met with space aliens last month – I read it on the Interwebs!”

Like you, I spend a lot of time in front of a computer, navigating website **clickpaths**. These are the sequences of hyperlinks we all have to click on to get from one webpage to another before we get to exactly what we're looking for. I'm pretty good at avoiding **clickbait**, the distracting advertisements and other links that ask us to leave a webpage we're on and visit a different one. And I've become better at separating facts from **word-of-mouse** rumors and gossip about celebrities or politicians. This play on “word of mouth” refers to a computer mouse.

I have to admit, I do enjoy browsing through many of the **listicles** suggested to me by Yahoo! News and Facebook. Listicles are articles which are written as numbered or bullet-pointed lists, for example “Tips for getting lower rates at your favorite hotels” or “Five foods you should be eating for breakfast.” My favorite listicles offer **life hacks**, a term that has emerged from computer hacking. Life hacks are suggested shortcuts that solve minor annoyances in everyday life. Use paper towel tubes to keep wrapping paper tidy! And instead of watering down white wine with ice cubes, chill it with frozen green grapes!

I'm still weighing the pros and cons of **cord cutting**. The phrase “cutting the cord” refers

to the umbilical cord connecting a newborn child to its mother and has served as a metaphor for someone becoming independent. Nowadays, cord cutting often applies to the practice of canceling longtime newspaper subscriptions, paid television packages, or landline telephone connections and switching to online services.

The creation of new tech-specific nouns and verbs has encouraged people to take many of them a step or two further. If an onscreen item can be clicked on with a mouse, it's **mouseable**. And if you can then drag and drop it, the item is **draggable**. In the same way, software settings may make some files **editable** but render others **uneditable**. This may happen, for example, if someone has turned a Word file into a pdf file – in other words, **pdf-itized** it. Is it impossible to do a search on a fact? It's **unlookupable**. Updating your computer system? The process is called **updatation**. And deleting duplicate files from your computer storage? That's **deduplication**!

I have no doubt that the vocabulary police will do whatever they can to stamp out many of these new terms. Others may die out on their own. Some, however are likely to stick, entering common usage and finding themselves on “Word of the Year” lists. In the meantime, this dinosaur needs to survive in the current era – I'm off to get my first smartphone!



中学英語 指導法事典



現場の悩み
152に答える

樋口忠彦・高橋一幸 編著
A 5判 304ページ
定 価 2,800円＋税

多くの教師がつまづき困っている問題（Q）に、解決のための考え方や方法（A）を具体的に示す。英語の指導法・指導技術に関する情報を集大成した指導法事典！

田尻悟郎の 英語教科書本文活用術！



知的で楽しい活動＆
トレーニング集

田尻 悟郎 著
B 5判 152ページ
定 価 1,800円＋税

教科書本文を料理する手法と観点が満載。「独り言突っ込み」「ひねくれ者音読」など活動名のインパクトと豊かな発問のアイデアで、生徒の“クリエイティビティ”を刺激！

 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10
TEL: 03-3238-6908 FAX: 03-3238-6960
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



英語教育 通信 ONE WORLD Info (2015 年 春号) 2015 年 3 月 31 日 発行

編 集：教育出版株式会社編集局 発 行：教育出版株式会社 代表者：小林一光
印 刷：大日本印刷株式会社 発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10 電話 03-3238-6864（お問い合わせ）
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社** 〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所** 〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社** 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社** 〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社** 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社** 〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社** 〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社** 〒812-0007 福岡市博多区 2-11-30 クレセント東福岡 E 室
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所** 〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411